

石炭危機突破集会

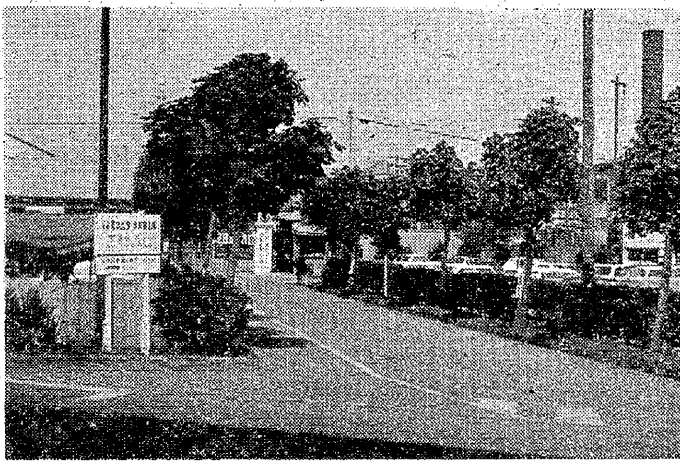
産炭地住民の結集を

石炭政策の現状許されぬ

炭だ」といわれ、石油独占資本が

中央から官本・炭労事務局長に勝間田・細谷両衆議院議員、阿具根参議院議員(いずれも社会党)を迎え、去月十二日大牟田労働会館で開かれた「石炭危機突破集会」は、「石炭産業でスクラップ・アンド・スクラップ政策を積み重ねながら、働く労働者の生活と健康が、地域社会の崩壊まで招いている現状を憂えるために、今後石炭産業を維持するために、労働者の命と暮らしを守るために、全地域をあげて闘ってゆくと」を、固く誓い合った。

この日の集会の各発言からすると、石炭産業をめぐる情勢が、思いのほかにきびしいことが明らかになり、数年以前まで年間五千万トンを上回っていた石炭の生産計



電化大牟田工場正門附近。ここでも人減らし合理化攻撃が急ピッチだ。

争って炭鉱企業の入手に積極的な姿勢が見られるのと、まさに正反對の現象。英国、フランス、西ドイツなどの石炭政策を見ても、わが国のようなひどい例はない。事実、この日阿具根参議院議員が明らかにしていたが、石炭の年間帯給計画が西ドイツが一億トン、英国が一億三千万トンだ。わが国の石炭政策・エネルギー政策の現状を、どうして許すことができようか。

電化、また人減らし合理化

ついで去月の九月、千人近く及び首切り合理化を行なったばかりの「電気化学」が、またまた実質的な人員整理につながる合理化を計画、大牟田市民をおどらしている。

資本の犯罪許すな

医療を告発 連帯と決起を誓う

去月六・七日東京で開かれた「日本の医療を告発するすべての人々のつどい」に、二人近くの人々が全国から駆けつけ、二百間にわたる医療を告発するつどい、を病、労働災害などの被災のことを明らかにし、最後に思いを新たに

退職者協、結成へ 努力実り三池で一本化

三池労組としては、池畑重富臨時執行委員が出席(ほかにCO家族の会の松尾恵虹さんが参加)、と

私の書棚

昨年大牟田で誕生を見た、季刊誌「文化」は、早くもその第二号を出版することができた。

感銘がずっしりと

(大牟田労働者の歴史を特集) ぜび読もう!! 三池文化「二号」

「三池」における全協事件とプロレタリア文学運動」という、座談会記事もある。何となく、プロレタリア詩運動をすすめていた郷土詩人の内田博さんがその中心だが。

春闘の後に残された課題は何か?

主張

賃上げを中心とする春闘諸要求の闘いは、五月二十六日、二十日の低額要求にとどまらず、第二次のストライキ突入をまえにして、例の二一一方当り

春闘相場づくりを見たらうで、五月下旬にストライキを含めた戦術を集中しようという方針は、はじめから春闘の統一闘争に依存した弱さがあったといえる。

中央機関に要請行動ならびに六月七、八日に二十四時間ストライキをしようというところであるが、このことは、政策闘争の階級視

三池炭鉱に在職していたときと労働条件の劣悪、人間関係のいびつさのために苦勞は多く、住所移動、再就職先の勤務の相違などが、容易なものではなかったが、各指導部の努力によって、本年四月末には、全指導部で結成することに成功をみるにいたった。

春闘の後に残された課題は何か?

賃上げを中心とする春闘諸要求の闘いは、五月二十六日、二十日の低額要求にとどまらず、第二次のストライキ突入をまえにして、例の二一一方当り

春闘相場づくりを見たらうで、五月下旬にストライキを含めた戦術を集中しようという方針は、はじめから春闘の統一闘争に依存した弱さがあったといえる。

中央機関に要請行動ならびに六月七、八日に二十四時間ストライキをしようというところであるが、このことは、政策闘争の階級視

三池炭鉱に在職していたときと労働条件の劣悪、人間関係のいびつさのために苦勞は多く、住所移動、再就職先の勤務の相違などが、容易なものではなかったが、各指導部の努力によって、本年四月末には、全指導部で結成することに成功をみるにいたった。